

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	情報	科目	ビジネス情報	単位	4	単位
対象コース	情報ビジネス	コース	対象クラス	3	年	4 組
使用教科書						
使用副教材	情報処理検定試験(データベース)模擬問題集 1・2 級編 情報処理検定試験(データベース)模擬問題集 3・4 級編 自主教材 (ネットワーク上にある指示ファイル)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

ビジネス情報では、情報処理の専門的な知識と技能について、データベースソフトウェアを通してさらに理解を深めて下さい。また、情報発信の方法とその問題点について理解を深め、情報化が及ぼす影響について考えて下さい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) データベース①→ 表計算ソフトとデータベースソフトの違いについて学びます。
- (2) データベース②→ 日検情報処理検定を題材として、データベースの理解を深めてもらいます。
- (3) データベース③→ チームを組み、データベースを作成します。
- (4) マルチメディア実習→ 音楽作成ソフトを使って、曲を作成します。
- (5) 情報発信→ Webページについて学びます。卒業記念として3年間の思い出をまとめたページを作成します。

家庭にパソコンがないところもあるので、家庭での学習はなかなかできないと思います。聞く時間、作業する時間をわけて授業を行います。とにかく授業に集中してください。また、板書は大事な部分しか書きませんので、メモを取るように心がけましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査→第2回考査・第4回考査を行います。授業で行った内容から出題しますが、情報メディアと合併での出題となります
- (2) 授業中での課題→授業中に課題を提示します。(ファイルを提出、印刷して提出)

評価における定期考査の割合

30 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

- (1) 関心・意欲・態度
課題や作業への取り組みが積極的であり、授業内容を進んで理解しようとしたかを見ます。課題の提出状況と内容も見ます。
- (2) 思考・判断
課題に対しどのソフトを使うか、どうやって行うかを見ます。また、トラブル時の対処方法について見ます。
- (3) 技能・表現
課題の意味を理解した内容をどのように表現していくかを見ます。
- (4) 知識・理解
小テスト、定期考査、課題の完成度、表現方法を見ます。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	○10分計測を行う(毎時間) データベース作成技能を習得する。	1年間を通して10分計測を行い、タッチ・メソッドの技術を習得する。日本情報処理検定試験の例題を用いて、データベースソフト(Access)について学び、応用操作を学ぶ ①データベースの特徴について学びます。 ②データベースソフトの特徴について学びます。 ③Accessの使い方について学びます。	●	●	●	●	
	7	・確認テストを実施 第2回考査 ○日本情報処理検定(DB)1級受検 ○日本情報処理検定(表計算)作成技能を習得する。	定期的に、検定合格に向けての小テストを実施する。今までの総復習をかねて、考査を行います。 日本情報処理検定試験の例題を用いて、表計算ソフト(Excel)について学ぶ。 全勝情報処理試験や、日本情報処理検定試験で学んだことを復習しながらグラフの作り方などを振り返りながら学習する。 日本情報処理検定試験(表計算 1級)、データベースで学習したことを活用できるので、振り返りながら学習する。	●	●	●	●	
2	9	日本情報処理検定試験(表計算 1級)						
	10	第4回考査 ホームページ作成 (11月下旬3年生終了まで)	今まで学習してきた知識がどれだけ定着したかを検定を通して確認する。 情報メディアと連携し、基礎から応用技術まで学んでいく。 この学習に用いる教材として、インターネット教材を使い生徒ひとり一人の能力に応じて学習を進ませていくことが可能となる。			●	●	
	11					●	●	
	12	完成披露会						
3	1	3年間の振り返り	製作したホームページを、生徒同士で評価をしてもらう。	●	●	●		
	2							

【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	商業	科目	簿記	単位	3	単位
対象コース	情報ビジネス	コース	対象クラス	3	年	4 組
使用教科書	実教出版 原価計算 新訂版					
使用副教材	反復式 学習と検定 原価計算問題集 全商 1 級 原価計算 改訂版					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

1. 製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得させ、原価の概念について理解させる。
2. 原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。
3. 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させる。
4. 会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

(1) 講義中心になりますが、毎時間問題演習をすることで、理解を深めていきます。

(2) 全国商業高等学校協会主催 簿記検定 1 級取得・日本商工会議所主催 簿記検定 2 級を目指した学習をしていきます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

帳簿記入などの実技は、教師の説明・指示を良く理解し、授業に集中して取り組む必要がある。授業中は、教師の説明を聞き逃さないよう集中し、良く理解すること。私語は大迷惑。

(2) 家庭

全国商業高等学校協会主催 簿記検定 1 級

検定試験・考査の範囲については、家庭での予習・復習が必要である

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査→第 1・2・3・4・5 回考査に行います。
- (2) 授業中での課題作成→授業中に課題を提示します。

評価における定期考査の割合

60 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、原価計算から得られる情報を活用する態度を身につけている。

(2) 思考・判断

各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。

(3) 技能・表現

製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、原価計算から得られる情報を的確に処理することができる。

(4) 知識・理解

製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造について理解している。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	第1編 原価計算の基礎	○ 工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解させる。	●	●	●	●	
		第1章 原価と原価計算	○ 工業簿記と原価計算の関係を理解させる。					
		第2章 原価計算のあらまし	○ 原価の意味（製造原価・総原価）を理解させる。					
	5	第3章 工業簿記	○ 原価要素の性格とその分類について理解させる。					
		一製造業における簿記一	○ 原価要素の集計のしかたと原価計算表の役割を理解させる。					
			○ 原価計算の四つの目的について理解させる。					
			○ 原価計算の手続きについて理解させる。					
			○ 原価計算期間について理解させる。					
			○ 原価計算の種類について理解させる。					
			○ 原価計算基準のあらましを理解させる。					
2			○ 工業簿記における勘定記入の特徴を理解させる。					
			○ 工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解させる。					
			○ 工業簿記の一連の記帳手続きを学習させることにより、全体的な構造を理解させる。					
			○ 工業簿記の帳簿組織を理解させる。					
	6	第2編 原価の費目別計算	○ 材料費の意味とその内容を理解させる。	●	●	●	●	
		第4章 材料費の計算と記帳	○ 材料の仕入れと記帳手続きを理解させる。					
		第5章 労務費の計算と記帳	○ 材料の保管について理解させる。					
	7	第6章 経費の計算と記帳	○ 棚卸減耗の意味とその処理方法を理解させる。					
			○ 材料の消費とその記帳手続きについて理解させる。					
			○ 材料の消費数量と消費単価の計算方法について理解させる。					
			○ 予定価格により、消費高を計算することの意味、予定価格を用いた二通りの記帳法を理解させる。					
			○ 労務費の分類とその内容を理解させる。					
			○ 賃金支払高の計算と記帳方法を理解させる。					
			○ 賃金消費高の計算と記帳方法を理解させる。					
			○ 予定賃率による消費賃金の計算方法と記帳方法を理解させる。					
			○ 賃金以外の労務費の種類、その計算方法と記帳方法を理解させる。					
			○ 経費の意味とその分類を理解させる。					
			○ 経費の消費高の計算と記帳方法を理解させる。					
	8	第3編 原価の部門別計算と製品別計算	○ 単純個別原価計算のしくみを理解させる。					
		第7章 個別原価計算	○ 原価計算表の記入方法を理解させる。					
		第8章 部門別個別原価計算	○ 原価元帳と製造勘定の関係を理解させる。					
	9	第9章 総合原価計算	○ 製造間接費の配賦についての概要を理解させる。					
		第10章 工程別総合原価計算	○ 価額法について理解させる。	●	●	●	●	
	10	第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの	○ 直接作業時間法による配賦、機械運転時間法による配賦を理解させる。					
			○ 実際配賦率による配賦の欠点を説明し、予定配賦率による配賦を理解させる。					
			○ 公式法変動予算を採用した場合の製造間接費配賦差異の分析について理解させる。					
			○ 仕損品・作業くずの処理を理解させる。					
			○ 部門別個別原価計算の必要性を理解させる。					
			○ 原価部門の設定について部門別計算の目的から考えさせ、各部門の役割を理解させる。					
			○ 部門別個別原価計算の手続きの全体の流れを理解させる。					
			○ 部門費配分表、部門費振替表を作成させ、それぞれにもとづく仕訳を、マスターさせる。					
			○ 製造部門費予定配賦表を作成させ、それにもとづく仕訳を、マスターさせる。					
			○ 部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認させる。					
			○ 生産形態の違いから、原価計算の方法も異なることを理解させる。					
			○ 個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。					
			○ 総合原価計算の種類と全体的な手続きの流れを理解させる。					
			○ 月末仕掛品の種類と全体的な手続きの流れを理解させる。					
			○ 月末仕掛品完成品換算数量・加工費・仕上がり程度などの用語の意味を理解させる。					
			○ 平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の評価をマスターさせる。					
	11		○ 単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と単純総合原価計算のしくみを理解させ単純総合原価計算のしくみを理解させる。					
			○ 等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解させ、等級別総合原価計算のしくみを理解させる。					
			○ 組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解させ組別総合原価計算のしくみを理解させる。					
			○ 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解させる。					
			○ 工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算のしくみを理解させる。					
			○ 工程別総合原価計算の手続きと記帳方法を理解させる。					
			○ 半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解させる。					
			○ 減損・仕損じの意味と、それぞれが発生した場合の処理方法について理解させる。					

			○ 副産物・作業くずの意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解させる。 ○ 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳法を理解させる。 ○ 販売費及び一般管理費の記帳法を理解させる。 ○ 月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。 ○ 財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成に習熟させる。 ○ 工場会計の独立と、その場合の記帳方法について理解させる。						
	12	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引							
	1	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2）							
	2	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算（その1） 第17章 直接原価計算（その2）							
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK	
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×	

[illegible]

【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン





道徳教育アイコン



1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	情報	科目	情報メディア	単位	4	単位
対象コース	情報ビジネス	コース	対象クラス	3	年	4 組
使用教科書						
使用副教材	情報処理検定試験(データベース)模擬問題集 1・2 級編 情報処理検定試験(データベース)模擬問題集 3・4 級編 自主教材 (ネットワーク上にある指示ファイル)					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

情報メディアでは、情報処理の専門的な知識と技能について、データベースソフトウェアを通してさらに理解を深めて下さい。また、情報発信の方法とその問題点について理解を深め、情報化が及ぼす影響について考えて下さい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) データベース①→ 表計算ソフトとデータベースソフトの違いについて学びます。
- (2) データベース②→ 日検情報処理検定を題材として、データベースの理解を深めてもらいます。
- (3) データベース③→ チームを組み、データベースを作成します。
- (4) マルチメディア実習→ 音楽作成ソフトを使って、曲を作成します。
- (5) 情報発信→ Webページについて学びます。卒業記念として3年間の思い出をまとめたページを作成します。

家庭にパソコンがないところもあるので、家庭での学習はなかなかできないと思います。聞く時間、作業する時間をわけて授業を行います。とにかく授業に集中してください。また、板書は大事な部分しか書きませんので、メモを取るように心がけましょう。

3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査→第2回考査・第4回考査を行います。授業で行った内容から出題しますが、情報メディアと合併での出題となります
- (2) 授業中での課題→授業中に課題を提示します。(ファイルを提出、印刷して提出)

評価における定期考査の割合

30 %

4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

- (1) 関心・意欲・態度
課題や作業への取り組みが積極的であり、授業内容を進んで理解しようとしたかを見ます。課題の提出状況と内容も見ます。
- (2) 思考・判断
課題に対しどのソフトを使うか、どうやって行うかを見ます。また、トラブル時の対処方法について見ます。
- (3) 技能・表現
課題の意味を理解した内容をどのように表現していくかを見ます。
- (4) 知識・理解
小テスト、定期考査、課題の完成度、表現方法を見ます。

5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	○10分計測を行う(毎時間) データベース作成技能を習得する。	1年間を通して10分計測を行い、タッチ・メソッドの技術を習得する。日本情報処理検定試験の例題を用いて、データベースソフト(Access)について学び、応用操作を学ぶ ①データベースの特徴について学びます。 ②データベースソフトの特徴について学びます。 ③Accessの使い方について学びます。	●	●	●	●	
	7	・確認テストを実施 第2回考査 ○日本情報処理検定(DB)1級受検 ○日本情報処理検定(表計算)作成技能を習得する。	定期的に、検定合格に向けての小テストを実施する。今までの総復習をかねて、考査を行います。 日本情報処理検定試験の例題を用いて、表計算ソフト(Excel)について学ぶ。 全勝情報処理試験や、日本情報処理検定試験で学んだことを復習しながらグラフの作り方などを振り返りながら学習する。 日本情報処理検定試験(表計算 1級)、データベースで学習したことを活用できるので、振り返りながら学習する。	●	●	●	●	
2	9	日本情報処理検定試験(表計算 1級)						
	10	第4回考査 ホームページ作成 (11月下旬3年生終了まで)	今まで学習してきた知識がどれだけ定着したかを検定を通して確認する。 情報メディアと連携し、基礎から応用技術まで学んでいく。 この学習に用いる教材として、インターネット教材を使い生徒ひとり一人の能力に応じて学習を進ませていくことが可能となる。			●	●	
	11					●	●	
	12	完成披露会						
3	1	3年間の振り返り	製作したホームページを、生徒同士で評価をしてもらう。	●	●	●		
	2							

【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

